

千曲市立八幡小学校



- (1) 学級数 14 学級
- (2) 児童数 男子 152 名 女子 134 名 計 286 名
- (3) 職員数 25 名
- (4) 学校紹介

<http://www.chikuma-ngn.ed.jp/~yahatael/>

八幡小学校は、千曲市の中心を流れる千曲川の西岸に位置している。校区内には、月の名所として知られる長楽寺、「田毎の月」で有名な姨捨の棚田、「おはちまん様」の愛称で親しまれている武水別神社、「姨捨伝説」も残されており、豊かな自然に恵まれた、歴史と文化の地である。

本校の学校教育目標は、「心ゆたかに たくましく生きる子ども」の育成である。この基本理念に基づき、「やさしい子ども・かしこい子ども・たくましい子ども」の育成をめざし、以下のような具体的な方策を通して、その具現化を図っている。

1 やさしい子ども (情)

「人・もの・ことと心をつなげることを喜びにできる子」にするために

- ① 感動体験を得る機会を多くする
 - ・心を揺り動かす教材や資料の工夫
 - ・動植物を育て、命を慈しむ体験を積み上げる
 - ・地域社会の身近な人々の生き方をとり上げ教材化
 - ・読書の充実（想像力・読解力の醸成）
- ② 保護者および地域の人々との連携を図る
 - ・学校支援ボランティアの導入（クラブ、総合等）

・地区行事への積極的な参加

- ③ 特別支援教育をすすめる
- ④ 人権（同和）教育をすすめる

2 かしこい子ども (知)

「意味や価値を実感していくことを喜びにできる子」にするために

- ① 教科指導の充実
 - ・基本的学習習慣の確立
 - ・個に応じた「つける力」の明確化
 - ・一人ひとりが課題を持って追究していく授業
- ② 地域素材を生かした学習活動
 - ・地域素材を取り上げて教材化し体験学習を進める
 - ・地域の人々と共に活動することを重視
- ③ 児童の創意工夫が生かせる学年活動・行事・児童会活動の充実

3 たくましい子ども (意)

「自分を表出していくことを喜びにできる子」にするために

- ① あいさつを重視
 - ・進んであいさつをする
 - ・相手の名前を呼んであいさつをする
- ② 時間いっぱい集中して清掃や作業に取り組む
- ③ 外遊びの励行(対人関係のあり方を学ぶよい機会)

(5) 大会テーマの受けとめと研究のねらい

本校では、全校研究テーマに「自分らしく輝き、共に学び合う授業の創造」を据えている。「自分らしく輝き」とは、教材（人・もの・こと）と出会いかわる中で、一人ひとりがその学習活動に夢中になって取り組み、自分の願いや課題をもって意欲的・主体的に追究していこうとする姿であり、ありのままの自分を表出していこうとする姿である。そして、「共に学び合う」とは、主体的に活動し友だちとかわる中で、相手の考えをしっかりと受け止め、互いの思いや考えを生かしながら自分の見方・考え方を広げ深めていこうとする姿である。子どもたちの学びの質を共に高めていくことをめざしている。

本校の全校研究テーマは、大会の研究目標である「自ら考える力と心豊かな人間性の育成」とめざすところは同じであると考えている。

全校研究テーマを受けて体育科では「どの子ども夢中になって運動に取り組み、できるようになった喜びを自分や仲間と実感できる体育学習のあり方～子どもたちの学びを促す視聴覚機器の活用を通して～」という研究テーマを設定した。どの子ども夢中になって運動に取り組むためには、子どもが飛びつき夢中になって活動できる教材づくりをすることが大変重要であると考えている。そこで、『やさしい運動への教材化』を図ることで、どの子ども意欲的に運動に取り組み、友だち同士でかかわり合いながら学習を深めてほしいと願い研究を進めてきている。それと共に、できるようになった喜びを自分や仲間と実感できるための支援のあり方についても研究を進め、有効な手立てがいくつか明らかになってきている。

また、子どもたちが、自分たちが学ぼうとする運動のイメージが持てたり、めざすゲームの姿が理解できたりする「わかる」ことを大切に子どもたちの学びを促していく視聴覚機器の活用について研究していきたいと考えている。



(6) 日常的な活用

○ 本校では、パソコン教室にデスクトップ型パソコン 40 台（教師用 1 台含む）とサーバー機 1 台、職員室に職員用デスクトップ型が 25 台、普通教室・校長室・事務室・保健室にデスクトップ型が 1 台ずつ配置されネットワーク化されている。また、図書館には、蔵書管理用デスクトップ型パソコン 2 台が配置されている。

職員室・校長室・事務室・保健室は、無線の LAN 設備が整っている。全てのパソコンが、千曲市のサーバーにつながっており、イントラネット化されている。パソコン教室は、各教科における調べ学習やパソコンクラブの活動などで大いに利用されている。プリンタは、職員室にカラーレーザー 1 台と白黒レーザー 1 台がネットワークプリンタとして接続されている。他に、校長室・事務室・図書館・パソコン教室に各 1 台ずつ配置されている。

- 国際理解教室と理科室にはデジタル黒板が配置され、インターネットにつなげ、教材をダウンロードして利用したり、教科書を映しだして授業を進めたりするなど、授業の中で有効に活用されている。
- その他にデジタルカメラ（児童用 6 台）、液晶プロジェクター 6 台、デジタルビデオカメラ 2 台などがある。
- 放送室からの映像放送では、委員会連絡を中心にスタジオで児童がとった映像をそのまま LIVE 映像としてお昼の放送に流すことが多い。

(7) 研究を推進してきたの現時点での課題

- ・ キーワードを『映像』とし、『映像』により子どもたちが「わかる」ことを大切にした視聴覚機器の活用を考えてきた。その中で、学ぼうとする運動のイメージを持ったり自分やチームの動きを共通理解したりする上で、VTRの活用やパワーポイントによるアニメーションの活用の有効性が見えてきた。今後は、何を、どの場面で、どのように見せるかということ教師側の視点だけでなく、学習の主体である子どもにとっての必要感を大切にしながら視聴覚機器の活用を考えていきたい。
- ・ 視聴覚機器の活用については、はじめに視聴覚機器ありきではなく、あくまで子ども中心に考え、体育科のねらいを達成するために必要感・切実感がある場面での活用を考えていきたい。したがって、日常の体育学習の授業でだれもが実践していくことが可能な視聴覚機器の活用を提案していきたいと考えている。